

氏助

賀日、先例多被渡長者印。略中殿下出御、公卿四條大納言、予。藤原吉田中納言、二條中納言、侍從宰相、新宰相等參著、次覽吉書。略中次被渡印、辛櫃、朱器、臺盤等、

〔資季卿記〕仁治三年三月廿四日、參左府殿下。藤原北政所御産氣近々、若觸穢者、朱器臺盤難被渡、仍明日於氏長者、可給宣下之由、自殿被申云々、

〔續日本紀一文武〕二年九月戊午朔、麻績豐足爲氏上、无冠大贄爲助、進廣肆服部連佐射爲氏上、无冠功子爲助、

〔倭訓栞前編四〕うぢのをさ 文武紀に、氏上の副を助ともいへり、

〔姓序考〕氏上

氏上の助と云者もありし由なれど、其は考べきよしあることなし、

氏人

〔運歩色葉集字〕氏人

〔書言字考節用集人倫〕氏人

〔延喜式十一〕凡平野祭者、桓武天皇之後王。改姓爲臣及大江和等氏人、並預見參、

〔西宮記臨時六〕諸社遷宮事

凡氏社事、氏人承行云々、

〔日本紀略三〕天曆元年九月五日丙辰、今日勸學院。藤原椎木、無故折令占云、氏公卿可慎云々、

〔榮花物語八〕あたらしきみこ。後の御よろこびに、氏のかんだちめ、ひきつれて拜したてまつ

り給、藤氏ながら門わかれたるは列にもたち給はず、

〔中右記〕永久六年。元永二月晦日、今夕有陣定、秉燭之間、參内、左大臣、右大臣、右大將、藤大納言、治部

卿、帥中納言、左大辨參仕、先安樂寺。在太別當所望、僧三人理非事、人々被定申、本依氏人。菅舉狀

補來也、而山大衆奏狀中、又可成延曆寺三人由申請也、如此之間、人々不被一決、重又相互被尋問、或